



【2019-03-27】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感
改めて知る株式市場の特殊性

長野修二

改めて知る株式市場の特殊性

日本の株式市場の特殊性は昔から言われていたことですが、私が、理解している特殊性は「[株式持ち合い](#)」くらいでしょうか。あるいは、個人株主が少ないといったことだったように思います。

[最近読んだ資料](#)で改めて日本の株式市場の特殊性を知ることになりました。

少し感じていたことでしたが、諸外国と比較したデータなどがなかったため、自分の中でやもやしていた感がありました。

また、最近上場基準の見直しが検討されていますが、その理由は、東証1部上場基準の緩和から株式市場全体がわかりにくくなってしまったからのようです。

特に外国人投資家の取引が減少することで我が国株式市場の衰退が叫ばれているようですが、衰退の理由は株式市場の市場区分だけに限らず株式市場の退出基準の緩さにもあったようです。

資料からわかるように日本の場合、諸外国と比較して上場企業が多く、しかも一度上場すると長く上場企業として存在していることがわかります。

資料にもあるように、このことは大型倒産でもなければ、長く上場を維持することができ上場の退出基準があいまいになっていることにも原因があるのではないのでしょうか。

上場企業に籍を置いたものとしては、その理由は明白な気がします。

株式上場をおこなう環境には、証券会社をはじめとして監査法人、証券代行、開示資料等の印刷をおこなう企業など、多くの関係企業があります。

これらは上場会社があっちはじめて経営が成り立っていますから、上場企業数が減少すれば、当然ですが経営自体が立ち行かなくなります。

これらの企業は、経営環境を維持できないような上場企業数の削減に納得するわけがありません。

当然、可能な限り上場企業数を維持拡大させることが必要なのです。

いわゆる既得権益でしょうか。

日本の株式市場が諸外国と大きく違うのも、株主を優先して市場を育成するよりは、このような市場から得る利益を主眼に株式市場を形成するという我が国の株式環境の実態がよくあらわれているのかもわかりません。

ジャスダック市場（売上100億円ほどの企業）でしたが、上場維持のための費用だけでも年間数千万円程度は必要でしたし、そこから利益を得ている企業としてみれば上場企業数が減ることは死活問題です。

こうして日本の株式市場は、上場企業の質よりも数、いわば証券市場を取り巻く企業のために存在しているといわれても仕方ないのかもわかりません。

市場区分の見直しは、これまた目先の問題をすり替えるだけでその本質的な問題から目をそらし、さらに次の問題を発生させる要因になるのではと、考えています。

我が国にも株式市場の本質的な課題を理解している人達はいりますが、これが本流にならないのは、いつの時代でも同じでしょう。

既得権益が強く作用するのが我が国の特徴のようです。